

大学院都市持続再生学コース 東大まちづくり大学院 シラバス

講義名	日常生活圏のまちづくり
担当教員名	蕭 耕偉郎、須永 和久
単位数(コマ数)	1.5
講義曜日・時限	土曜・3～5限
講義目的	・本演習においては、上記の状況、地域の資源、周辺状況を踏まえて、2050年に向けて、下北沢駅周辺について、新規開発や流入する人口がもたらす高級化の現象と、既存の密集市街地・従来人口とが共存しうるオルタナティブ・ジェントリフィケーションを実現することを目標として、その実現のためのまちづくり事業を検討し、提案する。 ・目指すべきまちの将来像を実現する事業を検討提案することを通して、地区単位のまちづくりの現況課題の分析から計画及び実現手法の流れ、考え方、組み立て方法、論理（ロジック）を習得することを演習の目的とする。
成績評価方法	「下北沢駅周辺におけるオルタナティブ・ジェントリフィケーションを実現するまちづくり事業」の検討作成 グループ課題（主に中間発表まで） ・2050年を目標とし、下北沢駅周辺を対象として、これまでの市民主体のまちづくりを起点として、地区固有の特性（下北沢の創造性や文化）を活かしながら新規開発と、既存の密集市街地との共存に寄与するオルタナティブ・ジェントリフィケーションの実現を目指す。そのための4テーマ（循環経済、イノベーション、社会的包摂、防災）同士が相乗効果を生み出す地区ビジョンを提案する。 個人課題（中間発表以降） ・地区ビジョンに基づくオルタナティブ・ジェントリフィケーションを実現する事業（ハード事業かつソフト事業）を提案する。

No.	講義日程	講義時限	講義者	講義形式	講義タイトル
1	10月4日	3～5限	向井 隆昭、蕭 耕偉郎、 須永 和久	対面	ガイダンス・下北沢のまちづくり
2	10月11日	3～5限	蕭 耕偉郎、須永 和久	対面	グループワーク・エスキス
3	10月18日	3～5限	蕭 耕偉郎、須永 和久	対面	中間発表：班ごとに地区ビジョンを発表
4	10月25日	3～5限	蕭 耕偉郎、須永 和久	対面	個人ごとの事業提案エスキス
5	11月1日	3～5限	蕭 耕偉郎、須永 和久	対面	個人ごとの事業提案+班ごとの地区ビジョンの検討、エスキス
6	11月8日	3～5限	長沼 洋一郎、向井 隆昭、千葉 元生、 蕭 耕偉郎、須永 和久	対面	最終発表会
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					